

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501761		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家 1F		
所在地	札幌市白石区北郷1条3丁目1-54		
自己評価作成日	令和4年1月21日	評価結果市町村受理日	令和4年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活をゆとりを持ちながら入居者のペースに合わせて、安心・安全に暮らせるよう、スタッフもゆとりを持ちながら接することが出来る様に、チームケアを意識しながら支援をおこなっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvovsoCd=0170501761-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン		
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F		
訪問調査日	令和4年2月8日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームあさひの家」は、JR白石駅から徒歩で10分ほどの静かな住宅地に立地している3階建て3ユニットのグループホームである。近隣には公園や金融機関、スーパーマーケットなどもあり生活の利便性が高い。感染症の流行により地域との交流は少なかったが、長年職業体験を受け入れている小中学校の生徒から寄せ書きが届けられたり、敷地内に揚げた鯉のぼりを小学生や幼稚園児が見学に訪れて利用者と挨拶を交わしている。運営推進会議も感染状況に応じて開催し、外部評価ツールに沿って参加者から意見を収集するなど工夫した取り組みを行っている。研修体制も充実しており、外部のリモート研修を受講した職員を中心に内部研修を行うなど、計画的に実施して職員の資質向上に努めている。食事面では、利用者の状況に応じて畑での野菜作りや収穫を生活の一部に取り入れ、採れた野菜を食事に使用している。また、利用者の好みを取り入れた独自の献立で旬の味を楽しんだり、寿司や弁当などの行事食も提供している。入浴支援の面でも時間帯や回数など、各利用者の希望に添えるように柔軟に対応している。看取りにも前向きに取り組む、近年で数名の看取りを行っている。感染症の流行で遠方への外出はできなかったが、敷地内や公園の散歩、近くへの買い物など可能な限り外気に触れる機会を積極的に取り入れている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど揃っていない		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど揃っていない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらい 3. 職員の1/3くらい 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらい 3. 家族等の1/3くらい 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議、ミーティングにおいて定期的に基本理念や実践目標を話し合い明確化し、いつでも確認できるよう壁にかけている。	家族・地域社会とのつながりを大切にするという、地域密着型サービスの意義を踏まえた内容の運営理念を作成し、各ユニットに掲示している。会議で復唱したり入職時研修で説明し、職員間で共有しながら実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、町内会の夏祭りなどに協力している。また、白石区の小学校、中学校の生徒たちが職業体験で訪れている。	感染症の流行で地域交流はほとんどないが、敷地内に揚げた鯉のぼり見学に来た小学生や幼稚園の子どもたちと挨拶を交わしている。職業体験を受け入れていた小中学校から寄せ書きも届けられている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から認知症の相談を受け、アドバイスあるいは支援に繋げている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様、町内会長、包括支援センター職員に参加していただき、2ヶ月毎に開催。事業所の現状や活動内容に報告している。	感染状況に応じて実際の会議か書面会議を行っている。町内会から感染症流行時の室内運動について意見が出されたり、運営推進会議を活用した外部評価ツールに取り組んでいるが報告が中心となっている。家族の参加も得られていない。	テーマを記載した会議案内を全家族に送付し、参加できない家族の意見を事前に収集して会議に活かすよう期待したい。書面会議の時も、地域や家族に役立つ情報資料なども一緒に送付するよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との関わりは担当課との連絡のほか、包括支援センターと協力関係を築くように努めている。	メールや電話で現状報告をしたり、新型コロナウイルス感染症に関するアンケートやワクチン接種などについての情報提供を受けている。市役所から、運営推進会議を活用した外部評価ツールへの取り組み方法についてアドバイスをを受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催。また、年2回研修会を実施。不適切なケアや身体拘束を行わないよう意識を共有している。	禁止の対象となる具体的な行為を記載したマニュアルを整備し、入職時や内部研修で内容を確認している。外部のリモート研修を受講した職員を中心に内部研修を行っている。玄関の出入りはセンサーや事務所モニターで安全面を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	北海道高齢者虐待防止推進研修会に毎年参加し、研修内容を他職員にも共有できるよう伝達講習会を開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用されている入居者様がおられ、職員は関りを持ちながら、仕組みや必要性を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書など、時間をとり、丁寧に説明している。利用料金、リスクとその管理体制、個人情報取り扱い、医療連携体制の実施などについて詳しく説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ参加して外部の方々意見や想いを伝えられる機会をつくっている。入居者様のことばや態度から想いを察する努力を行い、不安・意見・苦情などについても職員で話し合い、対応している。	感染症の流行により家族が来訪する機会は少ないが、オンラインによる面会や電話で意見や要望を聞き取り、何かあれば介護記録に記入している。毎月の「あさひの家通信」と一緒に個別の写真やメッセージを家族に送っている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や全体会議を毎月行ない、職員の意見を聴いたり、発言する場を設けている。	全体会議やユニット会議で利用者の個別ケアについて意見交換することが多い。職員の提案でセンサーマットの設置を検討したこともある。職員は年間行事や環境整備など係や各委員会の役割を担当している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	令和3年度より、以前より要望が多かった職員の正社員化や共済による退職金制度が実現され、職員の働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍による社外研修参加の制限や開催中止により、社内研修を充実できるようスケジュールを組み立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染拡大状況に配慮しながら、同法人の他事業所から訪問を受け、情報共有や意見交換を行っている。いる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に本人に会い、話をする機会を設けてサービスが始められるように努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	これまでのご家族の苦労やこれまでの経緯について聴くようにしている。話を聴くことで落ち着き、次の段階への相談につなげている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な場合には可能な限り柔軟な対応を行っている。地域包括センターや事業者のサービスにつなげる対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活場面におけるお手伝いやレクなど共に行い、そのなかでコミュニケーションを図ることで、信頼を築き、お互いを支え合える関係性を維持している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の方の表出できない気持ちも察しながら、よい関係を築くように努力している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域に暮らす馴染みの友人が遊びに來たり、継続的な交流が出来るよう働きかけている。	感染症流行前は、近所に住んでいた方やお手玉や折り紙の会の方が来訪する利用者もいた。現在はハガキで交流している利用者もいる。家族と受診時に食事をしたり、職員と近くに買い物に行くこともある。長年来ている理美容師とは馴染みの関係になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく過ごす時間や気の合うもの同士過ごせる場面を作るなど、関係性がうまくいくように職員が調整役となって支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他に移られた方にも、利用者様と一緒に遊びに行ったり、事業所の行事に来てもらっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関りの中での把握に努めている。ことばや表情などからも本意を汲み取るようにしている。	会話や発語、表情などから思いや意向を把握している。利用開始時にライフヒストリー表を作成して趣味や嗜好を記入しているが、追記や更新は行われていない。	利用者の変化に応じてライフヒストリー表に追記や更新を行い、利用者の現状を把握しながら日々のケアや介護計画の更新に活かすよう期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活記録や家族の方、本人とのやり取りの中で把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーションや観察により状況の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人とご家族様から日頃の関りから、想いや意見を聴き反映している。また、職員間で継続的なモニタリングとカンファレンスを実施し、それに基づいたケアプランを作成している。	利用者担当職員と計画作成担当者を中心に全職員で評価を行い、6か月ごとに介護計画を作成している。介護計画1表に、利用者の具体的な意向を更に反映させたいと考えている。モニタリングシートの備考欄に変化を記入し、介護計画の見直しに活かす意向である。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の状態変化や職員の気づきは、個別のケア記録に記載し職員間での情報共有に努めている。個別記録をもとにケアプランの評価と見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かして入居者様にとって負担となる受診や入院の回避、医療処置を受けながらの生活の継続など、ご本人・ご家族様の状況や意向を軸に臨機応変に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域での暮らしを持続できるように、町内会長、区担当職員と意見を交換する機会を設けている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望するかかりつけの医となっている。状態変化・悪化がみられる場合は、電話連絡での指示、受診、往診が早急に受けられるよう医療連携している。	かかりつけ医を家族と受診する時は、健康状態を口頭やメモ書きで渡している。協力医療機関の受診は利用者の要介護度が上がり通院が難しくなれば、往診に変更している。受診と往診は「医療経過記録」に個別に記入している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携医療機関の看護師を配置し、訪問介護記録をもとに健康管理や状況変化に応じた支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、ご家族様と回復状況などを情報共有しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、「重度化した場合の対応に係わる指針」を説明し、意思確認を行い、看取り支援などの事業所が対応し得るケアについて説明している。	利用開始時に、重度化指針と看取り指針に沿って事業所として可能な対応について説明している。体調変化に応じて主治医と家族、事業所で方針を話し合い希望に応じて看取りも行っている。近年で数名の看取りを実施している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所外における救命講習参加を計画。新任職員など全職員が夜間の急変時などに対応する方法を習得できるよう訓練が必要と考えられる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年2回実施。避難方法について、防災協会の職員より指導、助言をいただいている。	年2回夜間の火災を想定した避難訓練を実施し、内1回は防災協会と敷地内の同法人施設職員の協力を得ている。職員の救命講習を計画的に進めている。地震時の危険箇所の確認やケア別の対応についての話し合いは行われていない。	地震時の事業所内の共用空間や居室内の危険箇所を確認するとともに、ケア別の個別対応について話し合い、記録をマニュアルなどに綴り定期的に確認するよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修会やカンファレンスの際、職員の資質向上を図ると共に、日々の関わり方を点検。記録記入は入居者様から離れた場所で行い、職員間の情報共有の話し声にも配慮している。	「さん」づけを基本に、利用者の希望を聞いて、より親しみやすい呼びかけをすることもある。内部研修で言葉遣いや対応を話し合うとともに、接遇などに関するルールブックを職員に配布している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の気分や希望に応じて、季節を感じてもらい、心身の活性化に繋げるよう日常的に散歩や家庭菜園活動を行っている。また、毎日のお茶会も天気の良い日は外で行い、入居者様同士の交流を図っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「一日の流れ」はあるものの、一人ひとりの人間性や人生歴に配慮しながら出来るだけ「私らしい生活」が出来る様に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の本意で身だしなみが整えられるよう支援している。個別の生活習慣に併せて、おしゃれを楽しみ、外出や買い物、行事に参加している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材や新鮮なものを取り入れ、入居者様の好みや苦手なものを踏まえたメニューを工夫している。入居者様に下膳、食器拭きのご協力をいただいている。	職員が独自の献立を作成し、食事を提供している。利用者は下膳や食器拭きを手伝っている。毎月、何らかの行事を企画し中華料理や寿司、弁当の出前など変化を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	おやつを含めて一人ひとりが、一日全体で、栄養や水分がどの程度摂れているのか記録し、職員が常に意識しながら関わっている。摂取量低下の入居者様には、医療連携により栄養補助剤を処方していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、機能に応じて職員が見守ったり、介助を行っている。就寝前は義歯の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の24時間記録にて排泄チェックを行い、排泄間隔を把握し、声かけ、誘導を行うことで、自立に向けて支援を続けている。	排泄チェック表に全員の排泄状況を記録している。半分以上の利用者は自力でトイレに行け、その他は状態に応じて誘導や介助を行っている。ベッド上で排泄用品を交換したり、ポータブルトイレを利用する利用者もいる。声かけの際は羞恥心に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れている。水分量も視野に入れて散歩や家事活動など身体を適度に動かす機会を設けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間の長短、湯温など個別に把握し、ゆっくり入浴できている。入浴されながらいない入居者様には、事前に声かけしたり、楽しく入浴できる雰囲気づくりを心がけている。	毎日、午前午後とも入浴可能で、各利用者が週2回程度入浴している。現在は入浴を嫌がる利用者はいない。入浴剤を使用したり、こまめにお湯を取り換え、気持ちよく入浴できるようにしている。同性介助となるように対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、体操や散歩、行事などに参加を呼びかけ、日中の傾眠が強くないように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルの作成や処方箋のコピーを整理し、職員が内容を把握できるようにしている。処方が変更されたり、状態変化がみられるときは、いつもより詳細な記録をとり、医療機関と連携を図れるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	演歌などのDVDやCDをお好みに合わせて選んで頂き、鑑賞している。食器拭きなどの家事活動も適宜役割として行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人の気分や希望に応じて、季節を感じてもらい、心身の活性化に繋げるよう日常的に散歩や家庭菜園活動を行っている。また、毎日のお茶会も天気の良い日は外で行い、入居者様同士の交流を図っている。	感染症流行により外出事は行えなくなっているが、事業所前での外気浴、周辺や公園への散歩、近所のコンビニエンスストアへの買い物、畑の野菜づくりなど、外での活動を楽しめるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様の協力を得て、小額のお金を持っている方もいる。ご家族様よりお金を預かり、事業所が管理している方でも、買い物の際には、自分で払って頂けるようにお金を渡す工夫をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	リビングの電話を利用して頂き、ご家族様や友人に要件を伝えてもらっている。手紙やはがきが届いた際は、読み上げるなどの支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の飾りつけは、入居者様と一緒に考えて、季節感をもたせるために定期的に替えている。テーブルを囲んで入居者同士で話合ったり、おやつ作りをしたり出来るように配置も工夫している。	廊下には利用者がビーズやフェルトで作った作品、折り紙や切り絵の作品などを数多く掲示し、玄関ホール付近には季節の装飾を飾っている。3階にはゲートルームやカラオケルーム談話室など、利用者同士や家族と過ごせる場所を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファコーナーやテーブル席があり、一人で過ごすことが出来たり、仲の良い利用者同士で寛いでいる姿がある。天気の良い日は、前庭のベンチで過ごされることもある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒や椅子以外に、利用者様の好みや使い慣れた物などを配置して、ご本人の思いに考慮している。	様々な広さの居室があり、備え付けの家具のほか、使い慣れた家具を持ち込むことができ、テレビや机、仏壇、戸棚など、個々の生活に応じて配置している。壁にはカレンダーや家族の写真、職員からの寄せ書きなどを飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ、居室などの手すりを設置したり、分かり易い絵や図なども使って自立支援している。		

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501761		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家 2F		
所在地	札幌市白石区北郷1条3丁目1-54		
自己評価作成日	令和4年1月19日	評価結果市町村受理日	令和4年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活をゆとりを持ちながら入居者様のペースに合わせて、安心・安全に暮らせるよう、スタッフもゆとりを持ちながら接することが出来る様に、チームケアを意識しながら支援をおこなっています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigogyosoCd=0170501761-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を各所に掲示したりして、職員が常に理念を意識して働けるような環境作りに努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭り、学生の活動、そのたのイベントに来てもらい地域交流の場を設ける。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームページ、回覧板、チラシなどを利用して、地域の人々に啓発活動に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族の方、地域の方々にも参加して頂き、事業所の近況報告し、意見交換の場となっている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて市町村担当者との連絡を取り、事業所の状況について説明を行っている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を年に数回、月何回かの研修会、勉強会に参加し、どういった行為が身体拘束に当たるか、理解したうえでケアに当たるようしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会社外の研修会、勉強会に出来るだけ参加し、どういった行為が虐待に当たるか理解したうえでケアに当たるよう努めている。		

グループホーム あさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度に関する会社外、会社内の勉強会、研修会に出来るだけ参加し、制度に関する理解を深めるようにしている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退去時には、書面および口頭にて、利用者や家族が納得いくまで時間をかけて説明し、同意を得られるようにしている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設け、直接言えないような意見、要望など聞き入れられるようにしている。			
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議、ミーティング、個人面談などで常に職員の勤務状況の把握に努めている。			
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者と職員が定期的に面談を行い、職員の勤務状況の把握に努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内のキャリアパスの作成、社内外の研修会の参加、資格取得へのバックアップなど、職員の資質向上の為に取り組みを行っている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社外の研修会、勉強会に出来るだけ参加し、他事業者の職員と交流出来る機会を設けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況		実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談を時間をかけて行い、リロケーションダメージを少しでも軽減できるように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族とも面談を時間をかけて行い、信頼関係を作り、利用者のケア、本人の思いなど役立つ情報は、文書に残し、日々のケアに活かせるようにしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に利用していたサービスを継続にて利用している方がいらっしゃる。必要に応じ、他事業所のサービスを利用し、連携して利用者支援に当たる体制ができています。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	サービスを提供する、されるというだけの一元的な関係ではなく、人生の先輩であるという気持ちで常にケアに当たる様にしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフにしか出来ないこと、ご家族にしか出来ないこと、本人にしか出来ないこと等、利用者を支援する関係づくりに努めている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人がリモートや、ホームに遊びに来たりと、今までの関係が途切れない様働きかけている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者とは個別に関わる場、プライベートスペースや利用者同士交流し集団で関わる場と使い分け、その都度必要な支援をするよう努めている。			

グループホーム あさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他へ移られた方にも、利用者と一緒に遊びに行ったり、事業所の行事に来てもらっている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりやアセスメントツールを利用し、ご本人の思いを現実出来るようなケアをするよう努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ライフヒストリー表、アセスメント表などを利用し、利用者の状況把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化、行動等を観察し、個別の24時間の記録で、利用者一人ひとりの日常生活を把握するようにしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員間では、毎月のミーティングを行い介護計画や日々のケアを見直している。ご家族とも情報を密にし、より良いケアが出来るようにしている。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな変化も見逃さないよう、記録に残し、職員間で共有できるようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関との体制を活かして医療処置を受けながらの生活の継続。ご家族・ご本人の状況や要望を軸に臨機応変に対応している。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者が地域で安心して暮らせるよう、警察・民生委員・区担当職員等と意見交換する機械を設けている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族の希望するかかりつけ医となっている。状況変化・悪化が見られた場合は、電話連絡での指示・受診・往診が早急に受けれる事ができている。			

グループホーム あさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関の看護職員を配置し、毎週水曜日に利用者の健康管理、状態変化に応じた支援を行っている。訪問介護記録を使用し、常に連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、書面・電話等、円満に情報交換できるような体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	「重症化した場合の対応に係る指針」を制作し、意思確認を行い、事業所が対応し得る最大のケアについて説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアル作成、色んな状況に応じた対応が出来るように、職員は日々励んでいる。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回の避難訓練に参加し、どうすれば安全かを常に考えている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティング等により職員の資質向上をはかると共に、日々の関わり方を点検し、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を図っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員の都合を押し付けず、入居者の思うままにできるよう、最大限配慮するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のタイムテーブルで過ごすのではなく、入居者のペースに合わせて、最大限の配慮をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体で身だしなみが整えられるよう職員は、お膳立てしたり、不十分な所や乱れは、さりげなく直している。		

グループホーム あさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は素材・新鮮な物を取り入れ利用者の好みや苦手な物を踏まえたうえでメニューを工夫している。食器洗い等、利用者の協力を得ている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事は毎日記録に取り、取りすぎ、取れなさ過ぎに配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き・義歯洗浄・うがいなど行い、口腔内の清潔を保つようになっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツ等に頼る事なく、出来るだけトイレで排泄出来るようケアの工夫をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	いつ、どの程度排便があったのか、チェックシートを作り、入居者一人一人の排便状況に気を配っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日、入浴することが出来、1人週2回の入浴している。利用者には事前に声掛けや、お誘いかけの工夫で、入浴拒否はほとんどない。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転ならない程度の昼寝をして頂くこともある。利用者に合わせて気持ちよく寝て頂くよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイル・マニュアル・ケースを使い職員が内容を把握出来るようにしている。服薬は本人に手渡しし、声掛け・ダブルチェックを確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事手伝い、レクリエーション、手芸等の参加を促すなど、楽しく過ごせる時間を儲けるよう工夫している。		

グループホーム あさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近所の散歩や畑作りなど積極的に出て頂くようにしている。季節感を味わう外出を計画し施設内に閉じこもりがちにならないよにしている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設の事務所金庫にて管理している。必要な場合は利用者に使えるようにしている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙、リモート、電話などいつでも使えるようにしご家族や友達など連絡が取れるようにしている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下には写真や利用者が作成した作品を飾り、季節間のある装飾にも心がけている。温度、湿度にも配慮し、心地よく過ごせるようにしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間(居室)、みんなで過ごせる空間(食堂)、中間の場所(キッチンなど)を用意し、必要に応じて使い分けている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際には、それまで使っていた使い慣れたものを引き続き使っていただくようにしている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ、居室などの手摺りを設置したり、居室の表札は手作りで親しみやすいものを用意している。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170501761		
法人名	朝日ベストライフ株式会社		
事業所名	グループホームあさひの家 3F		
所在地	札幌市白石区北郷1条3丁目1-54		
自己評価作成日	令和4年1月19日	評価結果市町村受理日	令和4年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>日々の生活をゆとりを持ちながら入居者様のペースに合わせて、安心・安全に暮らせるよう、スタッフもゆとりを持ちながら接することが出来る様に、チームケアを意識しながら支援をおこなっています。</p>

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigogyosoCd=0170501761-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年2月8日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>（この欄は外部評価機関からのコメントを記載する欄です。コメントがない場合は空白で構いません。）</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全体会議、ミーティングにおいて定期的に基本理念や実践目標を話し合い明確化し、いつでも確認できるよう壁にかけている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	例年、町内会の夏祭りなどに協力している。また、白石区の小学校、中学校の生徒たちが職業体験で訪れている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ご家族様、町内会長、包括支援センター職員に参加していただき、2ヶ月毎に開催。事業所の現状や活動内容に報告している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は家族・町内会長・地域包括センター職員等が参加し、2ヶ月毎に開催。事業所の現状や日々の活動内容・自己評価・外部評価について報告している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市との関わりは担当課との連絡のほか、包括支援センターと協力関係を築くように努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を3ヶ月毎に開催。また、年2回研修会を実施。不適切なケアや身体拘束を行わないよう意識を共有して、不適切なケアや身体拘束を行わないよう意識を共有している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	北海道高齢者虐待防止推進研修会に毎年参加し、研修内容を他職員にも共有できるよう伝達講習会を開催している。		

グループホーム あさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を活用されている入居者様がおられ、職員は関りを持ちながら、仕組みや必要性を理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書、重要事項説明書など、時間をとり、丁寧に説明している。利用料金、リスクとその管理体制、個人情報取り扱い、医療連携体制の実施などについて詳しく説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度からその思いを察する努力をしている。家族会等で常に問いかける等、話しやすい雰囲気作りに努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や全体会議を毎月行ない、職員の意見を聴いたり、発言する場を設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	令和3年度より、以前より要望の多かった職員の正社員化や共済による退職金制度が実現され、職員の働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍による社外研修参加の制限や開催中止により、社内研修を充実できるようスケジュールを組み立てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの感染拡大状況に配慮しながら、同法人の他事業所から訪問を受け、情報共有や意見交換を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用相談があった時、必ず本人に会って心身の状態や本人の思いに向かい、職員が本人に受け入れられるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の思いや困っている事、今までのサービスの利用状況等、これまでの経緯について、ゆっくり聞くようにし家族の支援にも繋げるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には、可能な限り柔軟な対応を行い、場合によっては他の事業所のサービスに繋げる等の対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは自身で行ってもらい、入居者全体に関わることは職員と共にお手伝いとして行ってもらい暮らしの場を作っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、家族の思いを汲み取り、日々の暮らしの出来事や変化について報告。 家族ノートで本人の生活ぶりや行事の様子などをきめ細かく知らせている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人への電話など本人が希望している場合には、その場を提供している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、利用者同士が関わり合えるような雰囲気作りに取り組んだり、良い関係が作れるよう配慮している。		

グループホーム あさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も必要に応じて、経過をフォローし、これまでの関係を大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族からの話を聴く、また何気ない言葉、ふとした時に発言したことなどを職員間で共有し把握に努めている。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族から聞き取り、把握に努めている。入居後も折に触れ、本人、家族から生活歴について聞いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別の24時間の記録で、利用者一人ひとりの日常生活を把握。日々の変化、行動等を観察している。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人には思いを聞き、家族へは来訪時に現状を報告し何かあれば意見を求めている。その後職員でモニタリングを行い現状に応じてカンファレンスを行い介護計画を作成している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入後、全体日誌への要点整理し記入後、職員間で共有するよう確認印で点検。それを元に実践や介護計画の見直しを行っている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診の際、基本的には家族同行の受診だが、いけない場合には職員が代行を行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居者様が安心して地域での暮らしを持続できるように、町内会長、区担当職員と意見を交換する機会を設けている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望するかかりつけの医となっている。状態変化・悪化がみられる場合は、電話連絡での指示、受診、往診が早急に受けられるよう医療連携している。			

グループホーム あさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関の看護職員を配置し、利用者の健康管理、状態変化に応じた支援を行えるようにしている。訪問看護記録を使用し、連携を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご本人への支援方法に関する情報を医療機関に提供し、ご家族様と回復状況などを情報共有しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、「重度化した場合の対応に係わる指針」を説明し、意思確認を行い、看取り支援などの事業所が対応し得るケアについて説明している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時の救急対応についてマニュアルを整備し、周知を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間を想定した避難訓練を年2回実施。避難方法について、防災協会の職員より指導、助言をいただいている。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で入居者の話の際には、小声で話す。直接的な名前では話さない。人がいないところで話すなど対応をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりのペースや気持ちを尊重した対応を行っている。希望や思いをしることを大切にして、それぞれの利用者に応じて柔軟に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	就寝時間をきっちりと設けず、眠りたくないのであればTVを見て過ごしていただく。起床時間が深夜でも就寝を促すではなく、居室内で好きなことをし過ごしていただいています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人主体で身だしなみが整えられるよう職員は、お膳立てしたり、不十分な所や乱れは、さりげなく直している。また、入浴後の衣類は選んでもらっている。		

グループホーム あさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が家庭菜園で育てた野菜と一緒に収穫し使用したり、好みの味付けや要望を聞き入れ提供し、後片付けも職員と一緒にしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日誌への食事量・水分量を記入し把握。確保できていないと感じた場合、医療機関と連携を図り高栄養補助食品の提供や家族への協力を得て好みの飲料を提供など行い支援している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けや誘導を行い利用者の状態で介助したり、見守りを行っている。就寝時には義歯を回収し洗浄を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中おおよそ3～4時間でトイレ誘導・パット交換を行っている。また希望があればその都度誘導を行う。ポータブルトイレ使用が可能な方には日中・夜間帯に使用しています。便秘予防として下剤調整を行っています。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品・水分補給こまめに取り入れている。午前にはラジオ体操午後からはレクリエーションを行うなど医療機関とも連携を図りながら便秘を予防している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回を基本とし、午前・午後どちらでも入浴可能とし、その日が嫌であれば翌日などへ変更可能にするなどしている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣・本人の体調を考慮し休憩時間を設け、昼夜逆転しないように休憩時間の調整を行っている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様のお薬情報説明書を事務所へ置き職員が内容を理解する場を設けている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や残存機能を基に、それぞれ役割としてお手伝い(掃除・タオルたたみ等)をお願いしたり、居室内で好きな編み物等してもらい気分転換の支援をしている。			

グループホーム あさひの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価(3F)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ過で積極的な支援は行っていません。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	小遣いとして所持している利用者へは、職員が買い出しを行い、自分で買い物を行っているように支払い時には職員へ支払ってもらい職員2名で確認している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望者には事務所で電話使用をして貰っている。また手紙も同じように希望時購入代行や投函を支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	風呂場・廊下には手すりを設置しており、安全且つ自立した生活が送れるように支援している。また季節ごとに共有空間の装飾を変えて季節を感じてもらっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル席もあり、定期的に席替えを行うようにして居心地の良い場所の提供を行っている。利用者同士の交流の場となっている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	筆筒や椅子以外にも利用者の好みや馴染みの物を配置して、ご本人の思いに配慮している。必要に応じて扇風機や加湿器を設置し快適に過ごせるよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、浴室、トイレ、居室に手摺を設置して安全な環境となっている。トイレの手摺を増すことにより安全に自立支援を行うことができた。		

目標達成計画

事業所名 グループホームあさひの家

作成日：令和 4年 2月 16日

市町村受理日：令和 4年 2月 21日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議は報告が中心となっている。家族の参加も得られていない。	その都度、テーマや課題を設定し、次回の会議などで話し合いを行っていく。	テーマを記載した会議案内などを全家族に送付し、参加できない家族の意見を事前に収集して運営推進会議に活かした取り組みをする。書面会議の時も、地域や家族の役立つ情報資料なども送付し意見を頂きサービス向上に活かしていく。	1年
2	35	年2回、夜間を想定した避難訓練を実施しているが、地震時の危険個所の確認やケア別の対応について話し合いが行われていない。	地震時の事業所内の共有空間や居室内の危険個所を確認するとともに、ケア別の個別対応などに綴り定期的に確認をして行く。	自然災害の防災マニュアルに沿って、事業所内の共有空間、居室の危険個所を確認する。利用者ごとのケア場面での対応を話し合い、記録を追加していく。	1年
3	23	利用開始時ライフストーリー表を作成し趣味や嗜好などを記入しているが、追記や更新が行われていない。	ライフストーリー表の追記、更新を適宜行い、入居者様の自立支援に常に備える。	利用者様の変化に応じてライフストーリー表に追記や更新を行い、利用者様の現状を把握しながら日々のケアや介護計画の更新に活かしていく。	1年
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。